

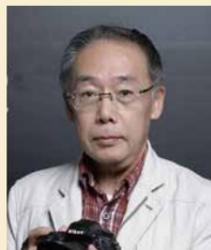
新連載 ツールマニアックス TOOL MANIAX

第1回

インスペクターの道具について語ろう!

前回の巻頭特集「ツールマニアックス」。意外と反響が良かったので、連載企画として新連載が決定いたしました。インスペクターの道具にまつわる偏愛と発見!何気なく使っている道具に対するこだわりをたっぷり語っていただきます。栄えある連載第1回は北海道エリア部会の古田昌之部会長からお話をお聞きしました。

聞き手 ホームインスペクターズジャパン編集部 三原広聡



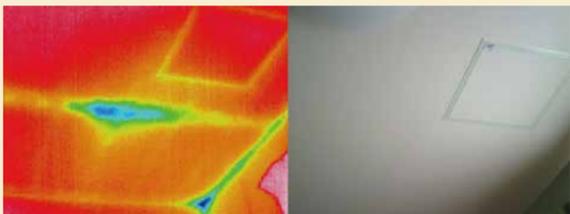
北海道エリア部会長
古田昌之氏

電子の目で住宅診断…赤外線サーモカメラ

編集部 古田さんがこだわっているインスペクションツールって何かありますか?

古田氏 うーん…強いて言えば、赤外線サーモカメラという機械を昔から好きで使っていて…そんな高いものは持っていないんですけど。

編集部 あ、テキストにもあった天井の雨漏りとかを見るやつですね。



▲ 典型的なサーモ画像

古田氏 はい、それで雨漏りとか、断熱欠損、機器の作動状況の確認などにも使うのが、他のインスペクターさんとの違いかもしれません。

編集部 『断熱欠損』や『機器の作動状況』って、そんなことまでサーモグラフィーで分かるんですか?

古田氏 環境さえ整えてあげると見つけやすいですよ。例えば居住中で屋外が氷点下、室内が20度のような状況下では断熱材の隙間などは見つけやすくなります。まあ、100%ではありませんが筋交いの位置や柱などもある程度は見る事ができますよ。

編集部 へえー(感嘆) 壊さず、入らずでそれが分かるって便利ですね。それって外からは見えないですよね。報告するときはどのように書くんですか?

古田氏 画像を添付して、『赤外線サーモカメラで確認しますと写真のような隙間が確認できたので、断熱材が入っていない可能性があります』といった書き方をします。

編集部 やっぱりお客様から「この部屋寒いんですけど見て欲しい」みたいな訴えがあったりするものなのですか?

古田氏 ただ、「部屋が寒い」と言っても、一部だけを見て原因が確定するものではありません。サーモグラフィーの結果だけではなく、床下を見たりしてトータルで原因を見つけっていくという流れになります。ご本人が気付いていないこともありますし。

例えば床暖房がある部屋だと、床暖房を作動させてサーモカメラで確かめると配管の状態が目で見られるんです。床をはがさずに、配管のつまりや破断して不凍液が漏れている様子などをサーモカメラでお客様に確認してもらうことができます。

あと、赤外線診断はオプション業務としてしていますので、要望をいただいてからとなります。



▲ 暖房機の配管もれ

赤外線サーモカメラと赤外線診断の世界

編集部 サーマカメラのメーカーはどこですか?

古田氏 アビオニクスという日本の会社のもので、多分サーモグラフィーを扱う人で知らない人はなんじやないかなと思います。外国製ではドイツ製などありますが、日本人なので国産を使っています。機種選定は個人の好みが良いと思います。



自分のモノは20万円くらいの普及品です。中には300万400万円する高級機もあって、このクラスだとビルのタイルの位置までわかりますね。そこまで高精細でも使いきれないというか…でも儲かったら欲しいです(笑) 検査の幅も広がりますし…夢ですね。車買うより高いですから。

編集部 やっぱり欲しくなりますか?

古田氏 そうですね。使い方の幅も広がると思いますよ。

カメラだけではだめ。基本的な知識と総合力が判断の肝

編集部 会員の皆さんにもやってみたいと思う人が出てくると思うのですが。

古田氏 そうですね。いろいろ機器も進歩していて、スマホに取り付けるようなものからポケットカメラタイプまで出てきてはいます。誰でも使える環境はできてはいるのですが、やみくもに撮っても結果が出るわけじゃないんです。

編集部 そこは興味があります。

古田氏 赤外線の特長や、調査場所の普段の環境などをわかっていないと正しい診断に繋がらないです。画像でおかしなものが出たとしても、それが不具合なのか、そうでないかは判断が難しいです。一部の業者さんなどで基本的な知識がないがゆえに誤った判断をする場合もあるようです。

編集部 赤外線ならではのエピソードってありますか?

古田氏 たまにあるのが、かつて換気フードがあった場

赤外線サーモグラフィーカメラ購入のアドバイス

編集部 実際にカメラを手にしたという人はどこに行けばよいのですか?

古田氏 アビオニクス社の製品となると、同社の代理店経由で購入ということになります。特に資格は要りませんが、赤外線サーモカメラは軍事転用ができる技術なので、国外への持ち出しには大臣の許可が必要など様々な制約があります。購入時には身分や保管場所を報告しなくてはなりません。ミサイルにつけるセンサーなどにも転用できるらしいですから。スマホに取り付けるタイプやポケットカメラタイ

これまでできなかった調査ができるようになりますし。

編集部 応用的な使い方というのは現場でトライ&エラーを繰り返しながら見つけていくのでしょうか?

古田氏 そうですね。例えば暖房便座などもカメラを通してみると断線の具合が見て取れて「へえ〜」と思ったりしましたね。

編集部 やっぱり好奇心や探求心が大切なんですね。いつ頃からサーモグラフィーを使い始めたのですか?

古田氏 インスペクションを始めたのが15年くらい前です。その頃から触る機会がありまして、ちょうど10年前に、東京で1週間泊まり込みのサーモカメラのトレーニング講座を受けに行きました。そこで得た知識や体験が今に繋がっています。

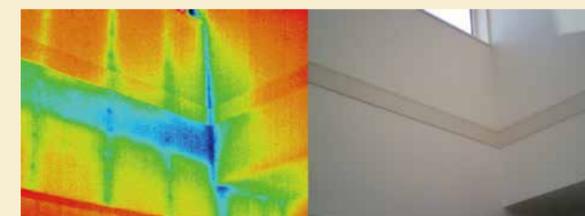
編集部 やっぱり専門的な知識なので、しっかり基本を身に付けてからという事なんですね。

古田氏 自分の場合は非破壊検査協会のサーモグラフィー資格を取りたくてそういった動きになりました。そちらは40時間もの学科と実技の講習を受けた上で試験がある厳しい資格だったのです。

所をそのまま塞いでしまったというケースでしょうか。サーモグラフィーで見ると四角く跡が見えるので、リフォームの際に直した方がいいですよとアドバイスさせていただいたりしていますね。

編集部 昔の手抜き工事がばれてしまう(笑)

古田氏 そうですね(笑) インスペクションは非破壊、目視が基本の仕事なので、機械を使うことでそれが分かるというのは楽しいですね。



▲ 換気フードのあと